

～～ お わ り に ～～

今回、取り組みました「災害時シナリオシミュレーション」は、そのような名称で専門のコンサルタントなどが作成した防災ハンドブック的なものはありましたが、自治体や地域住民が主体的に取り組んでいる事例は、全国的にもほとんど見当たらないという状況でした。

当初は、どのように進めていくべきか、全くの手探り状態でしたが、シナリオシミュレーションに言及している「計画発想法」という著書を発行されている 東京工業大学 建築学科 青木義次名誉教授に相談をさせていただいたところ、「シナリオシミュレーションとは、想像力を発揮して、一つの物語を作っていくものであり、その過程でいろんな課題や新たな発見がある」との助言をいただきました。

この一言をいただいたことで、まず、場面設定をして、地域の方々に行動や状況をイメージしてもらって、物語をつくりあげようという【姫路市版 災害時シナリオシミュレーション】の方向性が固まりました。

今回は、山崎断層帯地震を想定災害としましたが、このシナリオシミュレーションは、想定を南海トラフ巨大地震にしたり、台風や洪水にしたりすることで、異なるシナリオが生み出されますし、また、地域によってはイメージされる情景も全く違ったものになります。

そういう意味では、この災害時シナリオシミュレーションは、地域特性に応じた災害場面を設定し、地元の方々が意見を述べ合うことで、その地域の防災上の課題や対処法が見えてくるなど、図上訓練の一環としても活用いただけるものと考えております。

最後に、「災害時シナリオシミュレーション検討会議」において、真剣に考え、熱い議論を交わしていただいた青山地区の皆様と作成過程においても幾度も的確なアドバイスをくださった青木義次名誉教授に、心からお礼を申し上げます。

平成26年5月

姫路市市長公室 危機管理室